平成26年度活動報告書

震災の記憶

―あれからの被災地、これからの私たち。

総合学生支援センター
ボランティア活動支援センター　学生スタッフ

平成26年度 活動報告

震災の記憶

ーあれからの被災地、これからの私たちー

Ⅰあいさつ・・・・・・・2

Ⅱセンター紹介・・・・・・・3

平成26年度活動年表・・・・・・・4

Ⅲ支援センターの活動・・・・・・・5

（第5回東北ボランティアツアー / 大学祭 /
福島県富岡小学校との交流 / 学外でのボランティア）

Ⅳその他の支援センター年間活動・・・・・・17

（ふれあいの環 / ふれあいの環での活動 / ＦＤ）

Ⅴあとがき・・・・・・38

千葉大学ボランティア活動支援センター

あいさつ

グローバルとボランティア

理事（教育・国際担当） 渡邉　誠

皆さんがご存知の通り、千葉大学は、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、「千葉大学の新生 Rising Chiba University 」というプログラムが平成２６年より始まっています。このプログラムは、平成２４年より始まっているグローバル人材育成支援事業の発展であり、皆さんの留学を支援する skipwise プログラムは既に３年目を迎えています。このような、グローバルプログラムの中に、「グローバル・ボランティア」という授業科目が新設され、主に海外でのボランティア活動を大学主導で行っています。

このグローバル・ボランティアは、何となく意味が分かります。しかし、グローバルとボランティアに分けて考えるといかがでしょう？この２つを日本語で書いてみると「世界的」と「奉仕活動」となります。意味はわかりますが使いなれない（使いこなせない）言葉になってしまいます。つまり、グローバル・ボランティアという授業は、世界的奉仕活動となり、ピン！とこないと思います。確かに、グローバル化とかグローバル人材を世界化とか世界的人材とは言いませんよね。千葉大学ボランティア活動支援センターも同じですね、千葉大学奉仕活動支援拠点（センターも日本語にしました）だとちょっとニュアンスが伝わりにくい感じがします。

でも、中身はまさしく「奉仕」そのものであり、奉仕の精神に満ちあふれていると思います。皆さんが本年度に実施した内容の一部を書き出してみると、学内での交流活動にはじまり、東北地域（被災地域）におけるボランティア活動、大学祭における東北地域（被災地域）の現状とそこにおけるボランティア活動の報告で多数皆さんへの広報活動を行って来たと思います。中でも、富岡小学校との交流では、これまで行われて来た植物工場の活動の延長として小学生を大学に招いて見学会をしたり、富岡小学校の運動会参加にしたりなど、親密な関係を気づき上げてくれました。千葉県内においても、美浜小学校での活動や、農家支援の活動、さらには、東日本震災応援プロジェクトを行っていただきました。これらも、ある意味では、グローバルなボランティアであると思います。なぜかと言うと、日本人ならではの、きめ細かい奉仕の精神に基づいた活動であると、報告書を読んで確信したからです。これからもぜひ、日本人らしい「きめ細やかな奉仕」を千葉大学ボランティア活動支援センターで継続していただき、ぜひ世界に発信していきましょう。

センター紹介

１．センターの設置目的、概要

東日本大震災の被災地では救援・復興活動が行われており、長期にわたってボランティアが必要であると予想された。そこで千葉大学ではボランティア活動を希望する学生や教職員を支援することを目的とし、2011年3月末に「千葉大学ボランティア活動支援センター（以下文中ではセンターと略）」を設置した。

センターは「ふれあいの環」学生総合支援センター（以下文中ではふれあいの環と略）内にあり、常時在室しているふれあいの環職員が窓口として対応している。活動の企画や運営は、大学教職員とふれあいの環で活動する学生支援団体「ボランティア活動支援センター学生スタッフ」を中心とした有志学生によって進められる。

千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」を念頭におき、ボランティア活動を通した社会貢献の推進、学生の人間的成長の支援をミッションとして活動を行っている。

２．センターの活動

本センターの主な活動は、下記のとおりである。

１）ボランティア活動の企画
２）ボランティア募集情報の収集、ボランティア希望者への情報提供等の支援
３）ボランティア活動保険の加入等の活動支援
４）ボランティア活動用品の貸与・支給

３．ボランティア活動支援センター学生スタッフ

本センターでは、教職員とともに学生スタッフがピアサポーターとして活動している。学生スタッフの主な役割は下記のとおりである。

１）大学内に集められたボランティア情報を学生たちに発信すること
２）ボランティア活動支援センターに依頼がきたボランティアの企画・運営をすること
３）学生が発案した企画を運営すること

４．ボランティア登録状況（H27.3.20現在）

	学生		計
	男	女	
登録完了者	112	147	259

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ

平成26年度活動年表

月	活動内容	
平成26年 4月	10,15,24日	「ふれあいの環」合同説明会開催
	1，2，4日	健康ガイダンス参加
	8，9日	ビジョンナビセミナー参加
	18日	富岡小学校植物工場見学
	28日	ボランティア交流会開催
5月	16日	「カタリベカフェ」実施（第1回）
	23～24日	富岡小学校運動会参加
6月	16日	「カタリベカフェ」実施（第2回）
	20日	「ふれあいの環」5団体合同交流会開催
	30～7月7日	5団体交流外実施（七夕企画）
7月	7日	「カタリベカフェ」実施（第3回）
	16日	キャンパスクリーン活動参加
	17日	「カタリベ BAR」開催
8月	7日	「おつかれ SUMMER」開催
	22～23日	グリーングリーン第16回ボラバス参加
9月	2～3日	「ふれあいの環」交流会開催合宿
	6日	第6回ふるさと田中みこし祭り参加
	10～13日	第5回ボランティアツアー
10月	13日	学長杯駅伝参加
	10～11日	グリーングリーン第17回ボラバス参加
	20日	5団体交流会（秋の陣）開催
	27日	「カタリベカフェ」実施（第4回）
11月	1～2日	千葉大学祭開催
	20日	「カタリベカフェ」実施（第5回）
12月	7日	「縁 joy 東北」参加
	8日	「カタリベカフェ」実施（第6回）
	15日	キャンパスクリーン活動参加
	18日	5団体交流会（クリスマス企画）開催
	26～27日	グリーングリーン第18回ボラバス参加
平成27年 1月	8～9日	5団体交流会（お正月企画）（書初め、カルタ）開催
	5日	5団体交流会（ビブリオバトル大会）開催
	14日	「カタリベカフェ」実施（第7回）
	30日	富岡小学校冬の体験活動＆豆まき集会参加
2月	12日	5団体交流会（テストおつかれ企画）開催
	20日	FD「今、あらためて千葉大生を知る」研修会
3月	11日	「3.11を想う」開催

支援センターの活動

学内での日々の活動

掲示板

総合学生支援センター2階『ふれあいの環』に掲示板を設置し、ボランティア情報を貼り出しています。センターに集められたボランティア情報を「子ども」「国際」「災害」「福祉」「環境」「その他」の6つのカテゴリーに分けて情報の管理・発信をしています。

また、掲示板を見に来ることが難しい学生に対しては月に1度メールマガジンを配信しています。

時には、掲示板を見に来た学生のボランティア相談をすることもあります。

ボランティア交流会

新学期が落ち着き、ボランティアに興味がある学生を対象としたボランティア交流会を開催しました。

ボランティアに挑戦したいけどどういうことをやるのだろう、というボランティアの経験がない学生や、ボランティアの経験があるが今までとは異なる内容のボランティアをしてみたいという学生に対しボランティア経験者が「子ども」「国際」「震災」の3つのカテゴリーで経験を語ってもらいました。

平成26年4月28日
場所：総合学生支援センター2階「ふれあいの環」
　　　アクティブラーニングゾーン

「ボランティア交流会」ポスター

第5回東北ボランティアツアー

9月中旬に、第5回目となる第5回千葉大学震災ボランティアツアーを実施しました。
昨年に引き続き、現在最も復興の遅れている地域の1つ、福島県南相馬市にて活動を行いました。

実施概要	事前研修	8月27日
	ツアー	9月10日～13日
	事後研修	9月24日
	参加者	：学生28名、教職員8名
	活動場所	：福島県南相馬市

事前研修

ボランティアツアーを安全かつ有意義なものとするため、学生スタッフが主体となり、ツアー参加者に対して事前研修を行いました。
内容は被災地や装備についての説明や、班員との顔合わせなどです。

活動初日

9月10日（水）22時にバスで大学を出発し、翌日4時に南相馬市の道の駅に到着しました。3時間の仮眠をとった後、9時前には南相馬市ボランティアセンターに到着しました。

初日の活動は竹林の伐採と竹の枝打ちでした。作業場所のお宅の土地は震災以来放置されていたため、竹が繁殖し竹林になっていました。この日の作業はその竹をノコギリで切り倒し、枝を取払って細かく切る作業でした。作業量が多いこともあり、一般のボランティアの方々と協力して作業しました。宿泊施設に着いた後は、現地の方が撮影した津波の映像を見たり、研修医として南相馬市で働いている卒業生の方のお話を聞いたりしました。また、一日の最後にはリフレクションを行いました。それぞれが活動においての感想や反省点を整理し、班員と話し合いました。

第5回東北ボランティアツアー

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ

活動2日目～到着

2日目の活動は家屋の整理及び、草刈等を行いました。
3年以上放置されていたお庭は雑草に覆われ、お宅や物置の中はひどい状態でした。
参加者は家主の方の判断を仰ぎながら、物品の整理と廃棄物の分別を行いました。
また、草刈機を使える一般の参加者と協力し、お庭の芝刈りを行いました。
2日目も活動から帰った後はリフレクションを行い、参加者全員で活動を振り返りました。

12日22時、再びバスに乗り宿泊場所を出発。
千葉大学での解散は13日午前6時でした。

事後研修

9月18日、事前研修同様学生スタッフが主体となり､事後研修を行いました。
参加者は日常生活に戻った上でツアーでの体験を振り返り、参加者と話し合いながら震災やボランティアについての考えを深めました。

学長報告

9月24日、ツアーの企画運営を行った学生と参加した学生ら数人で、徳久学長及び渡邉理事に活動報告を行いました。

20分程度の報告の後、ボランティアや震災、学業等、様々なことを学長と議論しました。

参加学生の声

〈被災地への支援や復興について〉
家屋の片付け、掃除や除草のための草かりや伐採等、まだまだやらなければならないことが多い中で自分たちの働きがどれほどの「支援」となったのか正直わからないが、まだ今回のような活動を必要としている人は多くいるように感じた。　理学部研究科・２年（初参加）

〈南相馬市の状況や震災の被害について〉
去年も南相馬市にボランティアに訪れたが、家屋の状態はほとんど変わっていない印象を受けた。ここだけ、時間が止まってしまったように感じた。

理学部・３年（参加２回目）

〈ボランティア活動について〉
あまり難しく考えずにできることを取り組めばいいと思う。単純に、人のためになることをすることは楽しい。
「ボランティアとは何か、あるべき姿は」といったような議論はあまり重要ではないと思う。人が喜ぶことをする。困っている人を助ける。人に何かを与えることは楽しく気持ちがいい。単純に楽しいから、やる。難しく考える必要はない。　法経学部・３年（参加3回目）

〈南相馬市の状況や震災の被害について〉
時間がたてばたつほど、より他の人の協力が必要な場面がでてくる。1日目、2日目ともに、まず、雑草がありすぎる。これを除草してからの作業になるので、効率が悪く、早急に、対策を打つ必要性を感じた。
一方で、インフラ面は復興が進んでいる。ボランティアセンター付近の道路が、1年前は工事中だったところも修復され車通りも以前より活発であると感じた。

法経学部・３年（初参加）

〈その他〉

普段何気なく生活しているとどうしても自分の目先のことしか考えられないので、非日常的な体験をさせていただいて様々なことを考えることができ、大変有意義な体験であったと思う。ただ、まだ自分の中でボランティア＝非日常であり心構えが必要なものであるので、それをこれから日常にしていきたいと思った。
学科を越えた人とお話をしたり意見を交換できたこともとても良い経験になった。

文学部・２年（初参加）

学生スタッフの声

至らぬ点もありましたが、参加者の皆さんにボランティアを身近に感じていただくことができてよかったです。次回も企画してほしいとの声もいただき、今後とも学生のボランティア活動を支援していきたいと思いました。

学生スタッフ　工学部2年　安田秀輝

ツアーに参加したことは私にとって南相馬市の現状を知るよい経験になりました。震災から3年が過ぎた今でも復興が進んでないようでした。ボランティアとして参加することだけでなく、私たちが目で見た現状を伝えることが大事だと思いました。

学生スタッフ　工学部1年　秋山光

大学祭2014

震災の記憶ーあれからの被災地、これからの私たち。

平成26年11月1日～2日
場所：総合学生支援センター１階

企画名を「震災の記憶ーあれからの被災地、これからの私たちー」とし、東日本大震災を忘れることなく被災地に関心を持ってもらい、同時に、これからに備え多くの人に防災意識を高めてもらうことを目的として大学祭を企画しました。

東日本大震災・長野県北部地震、防災に関する展示とともに、東北地方特産品などの物産展も行いました。

ポスター

展示パネル

I
II
III
IV
V

物産展

被災地に目を向けてもらうため、東北3県から仕入れたお菓子・石巻の方々の手作りミサンガ・長野県栄村のピンバッジなどを仕入れ、販売しました。

来場者の声

来場者数は二日間で約500人でした。
展示、物産展とも多くの方々に来ていただきました。

風化しつつある東日本大震災、ずっと忘れないように……
地道に他人のために出来ることをこれからもがんばって取り組んでください。
心から応援しています。（50代女性）

ボランティア活動をされたとは知りませんでした。
本日の展示を見て、自宅の防災グッズをチェックせねば、と気づかされました。（40代女性）

当時を思い出し、震災の怖さを改めて知る、支援の必要性を痛感した。（60代男性）

ボランティア活動、とても立派だと思います。人のために活動することに、感銘致します。（40代男性）

来場者の声

企画を進める中で「自分たちはいつまで3.11と特別に向き合っていくのか」と悩んだこともありましたが、当日は多くの方に会場に来ていただきました。どれだけ目的が達成できたかは分かりません。しかし、東日本大震災が忘れられていないことを実感でき嬉しく思いました。
（学生スタッフ　法経学部2年　A・I）

私は主にセンターの外での呼び込みの役割をしていました。様々な年代、職種の方々にご来場頂き、感無量でした。私達がボランティアツアーに行って感じた事が伝わり、より多くの人に被災地の現状を知っていただけたようで感慨深かったです。ご来場頂いた方から応援のメッセージも頂いたことで、さらにボランティア活動に力を入れていきたいと思いました。（学生スタッフ　工学部1年　海老澤啓介）

福島県富岡小学校との交流

富岡第一・第二小学校 児童植物工場見学

平成26年4月18日
参加者：学生12名（内留学生7名）　教職員6名
場　所：千葉大学柏の葉キャンパス
（千葉大学環境健康フィールド科学センター）

オリエンテーション

千葉大学柏の葉キャンパス（千葉大学環境健康フィールド科学センター）に富岡第一・第二小学校の5・6年生の児童が社会科見学に来ました。福島第一原発事故の影響で、屋外で野菜や植物などと触れ合うことが困難な状況の児童のために教育用小型植物工場が小学校に設置されています。なおこの植物工場は、千葉大学とみらい、三井不動産、三協フロンテアの3社が共同開発し運営しています。

事前準備する学生と職員

工場内見学

当日、児童たちはレクリエーションで植物の生長の仕方を学び、実際に施設を見て回り、植物工場についての理解を深めました。昼食にはインドカレーとサラダ（植物工場で作った野菜）を食べながら交流を図りました。
学生は、昼食作りなどの当日準備、工場内での児童の誘導を行いました。中には富岡第一・第二小学校に継続的に関わっている学生も参加し、児童との交流をさらに深めました。

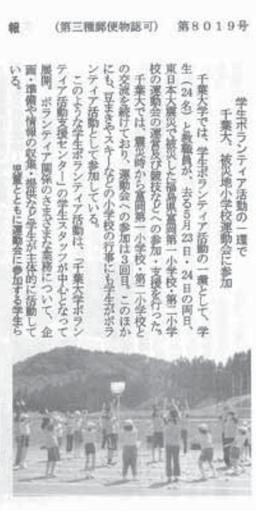
富岡第一・第二小学校 幼稚園合同運動会支援

平成26年5月23日～24日
参加者：学生20名　卒業生2名　教職員7名
場　所：福島県田村市総合体育館

富岡第一・第二小学校では、震災後、放射線の影響が懸念され、室内で運動会を行っていましたが、今回震災後初の屋外での開催となりました。

開会式

学生は運動会前日の予行練習から参加し、練習後は福島県三春町にある小学校に訪れ児童と一緒に給食を食べたり、勉強を教えたりしました。
当日は晴天の下、学生は児童と共に玉入れやしっぽとり、徒競走などに参加し、運動会を盛り上げました。



報　（第三種郵便物認可）　第８０１９号

学生ボランティア活動の一環で
千葉大、被災地小学校運動会に参加

千葉大学では、学生ボランティア活動の一環として、学生（24名）と教職員が、去る5月23日・24日の両日、東日本大震災で被災した福島県富岡第一小学校・第二小学校の運動会の運営及び競技などへの参加・支援を行った。
千葉大では、震災時から富岡第一小学校・第二小学校との交流を続けており、運動会への参加は3回目。このほかにも、豆まきやスキーなどの小学校の行事にも学生がボランティア活動として参加している。
このような学生ボランティア活動は、「千葉大学ボランティア活動支援センター」の学生スタッフが中心となって展開。ボランティア関係のさまざまな業務について、企画・準備や情報の収集・提供など学生が主体的に活動している。

児童とともに運動会に参加する学生ら

平成26年度6月20日　→
文教速報第8019号に掲載

体育館内では、 昨年に引き続き、今年度も千葉大学教育学部の学生が考案した競技､｢おかしの家｣(障害物競争)を行い、参加学生が事前準備で作成した家にお菓子を児童と協力して貼っていき、お菓子の家を完成させました。

避難先で元気な姿

平成26年度5月25日　福島民報に掲載

富岡第一・第二小学校　冬の体験活動＆豆まき集会支援

平成27年1月30日
参加者：学生6名　教職員5名
場　所：ファミリースノーパークばんだい×2

スキーの体験教室が行われ、学生も児童たちと一緒にスキーをしたり、雪遊びをしたりしました。富岡町はあまり雪の降らない地域なので、児童の多くはスキー場でのスキーが初めてです。雪が降るなかの活動でしたが、安全に楽しく過ごせました。

スキー体験教室は午前中で終わり、お昼にみんなでカレーを食べた後、豆まき集会が行われました。鬼の格好をした学生に児童たちが落花生を投げ鬼を追い出しました。その後、しっかり掃除をして小学校に帰りました。

小学校に戻ってから少しの時間ですが、教室で児童と交流しました。
楽しいひとときでした。

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ

学外でのボランティア活動

グリーングリーン 東京災害ボランティア 第16回・17回・18回親子ボラバスツアー

第16回 ：平成26年8月22・23日
参加者 ：学生13名
第17回 ：平成26年10月10・11日
参加者 ：学生3名
第18回 ：平成26年12月26・27日
参加者 ：学生4名
場　所 ：宮城県山元町

美浜小学校訪問

どの高さまで津波がきたか校舎に記録されており、その高さに圧倒されました。校舎の概観や中の様子を見学し、3.11のことをありありと思い出しました。

農家のお手伝い

私たちは初めての参加でしたので現地の農家の方とお会いするのは初めてでしたが、親子ボラバスツアーでこちらの農家に伺うのは12回目ということもあり、農家の方も何度か参加している方も久しぶりの再会で温かい雰囲気でした。
午前中は野菜摘み班、ねぎ畑の草抜き班に分かれ作業しました。
午後にはパプリカハウスのクリップ止めと里芋の草むしり班に分かれ作業しました。
農家の方に、「二人でやると何日もかかる作業を皆さんがやってくれることであっという間に終わる。」と感謝の言葉をいただいたことが印象的です。
最後には農家で収穫した野菜をお土産にいただきました。
いろいろな方と交流でき、温かい雰囲気の中でのボランティアでした。
帰りは銭湯に寄りさっぱりしました。
バスの中で参加者全員がボランティアを終えての思いを話しました。
お互いに刺激になり、学びになる話ばかりでした。

〈このボランティアに参加してみて〉

このような収穫祭を行えるのも何度も訪れ、お手伝いをする中で農家と greengreen に信頼関係が築かれているためです。その信頼の中に自分も参加できることは非常に幸せなことです。
又、今回の作業の休憩時間に農家の方に3.11当時のこと、現在の目標のために動き出しているという前向きな話、私たちに出会えて嬉しいといった話を聞けたことで「ボランティアに来てよかった。」と感じました。

学生スタッフ　文学部2年　清野可苗

東日本大震災応援プロジェクト
「縁 joy・東北」　in 千葉県

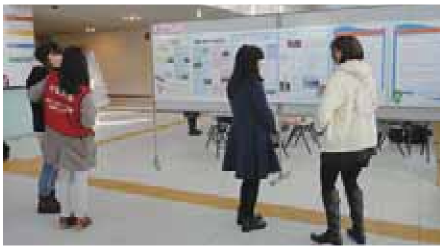
平成26年12月7日
参加者 ：学生9名
場所：Ｑｉｂａｌｌ[きぼーる]

NPO 法人「ちば市民活動・市民事業サポートクラブ」主催で様々な団体の震災に関する展示、ステージ企画、物産展などが行われました。

学生スタッフは、当日の会場準備を手伝いました。またボランティアツアーについてのパネルや、写真を展示させていただき、来場者の方に見ていただきました。

さらに、他大学のボランティア部の学生と交流して貴重なお話を聞くこともできました。このイベントに参加して、参考になること、感心すること、学ぶことがたくさんありました。

震災から４年近くたつ今でも、様々な困難があること、そのために改めて私達に何ができるのか、考えさせられる機会になりました。



〈イベントに参加して〉

縁 joy 東北へは2回目の参加でしたが、東北物産展やゆるキャラ交流など前回とは違う様子に驚きました。特に、復興カメラの写真展示や他大学の学生との交流に、参加してよかったという思いです。

学生スタッフ　教育学部2年　伊東真帆

平成26年 千葉大学ボランティア活動状況

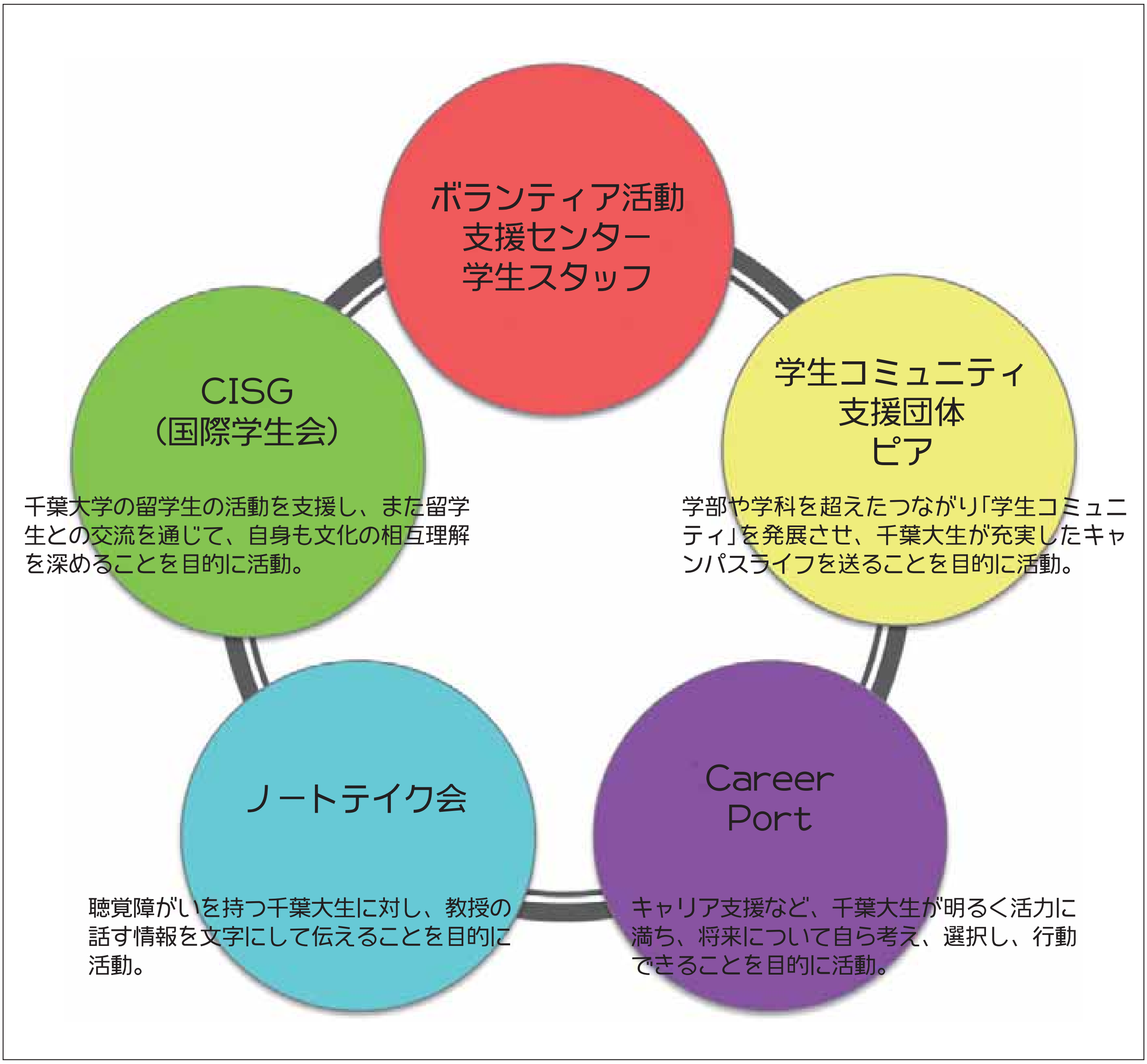
主な活動場所		主な活動内容
岩手県	陸前高田市	清掃活動など
宮城県	石巻市など	仮説商店街・仮設住宅の緑化プロジェクト、清掃活動など
	山元町	農業支援など
福島県	田村市・三春町	富岡町立富岡第一第二小学校の運動会支援
	南相馬市	「千葉大学ボランティアツアー」での活動
	猪苗代町	富岡町立富岡第一第二小学校の郊外活動支援
	いわき市	農業支援・清掃活動など
千葉県	柏市	富岡町立富岡第一第二小学校の郊外活動支援
	船橋市	児童養護施設での交流活動など
	千葉市	高齢者施設での交流活動など
福井県	坂井市	農業支援など
広島県	広島市	瓦礫撤去・清掃活動など

その他の活動

ふれあいの環

「ふれあいの環」とは

学生が学生を支援する活動を行う5団体により組織されています。
ボランティア活動支援センター学生スタッフはその5団体のうちのひとつです。



学生と学生、学生と教職員が相互にふれあい、イベントなどを通じて総合的な人間力をゆっくりと身につけていくための場所です。

各団体の活動だけでなく、その枠を越えた総合的な活動を展開しています。

ふれあいの環での活動

カタリベBAR開催

平成26年7月17日
来場者：学生・教職員　50名
場　所：総合学生支援センター2階『ふれあいの環』

カタリベBARとは、学生同士の交流の場を設けて、他者とのつながりを広げるきっかけを作ることを目的としたイベント「カタリベカフェ」の特別版です。

このイベントは企画立案するところから学生スタッフが行い、ゲストの招待から当日運営まで行いました。
今回は「アニメ業界」をテーマに、特別ゲストをお呼びして学年や学部、年齢の垣根を越えてフリートークを楽しみました。

ゲストとのフリートーク

「カタリベBAR」のポスター

お疲れSUMMER！開催

平成26年8月7日
来場者：学生・教職員　70名
場　所：総合学生支援センター2階『ふれあいの環』

お疲れSUMMER！とは、昨年度から総合学生支援センター「ふれあいの環」が主催で開催しているイベントで、前期セメスターがひと段落した学生を労うこと、そしてお世話になった教職員の方々へ感謝の気持ちを伝えることを目的にして様々なコーナーを用意しました。

テーマは「縁日」で、輪投げや絵手紙、型抜き、縁日定番の食べ物コーナーを設置しました。当日は地域の子どもたちや多くの学生、教職員の方々に足を運んでいただけました。

「お疲れSUMMER！」ポスター

ふれあいの環での活動

キャンパスクリーン活動

平成26年7月26日、12月15日
「キャンパスクリーン活動」とは
千葉大学が主催する、年に2回の構内清掃活動です。

「ふれあいの環」の学生も参加させていただき、教職員の方々と協力してキャンパスの清掃を行いました。

この日担当した清掃場所は総合校舎のE・F・G号館周辺でした。
職員の方々と協力しながら、主に石・枯葉・雑草等の除去を行いました。
2時間程度の活動でしたが、道の脇や校舎の裏がとてもきれいになりました。

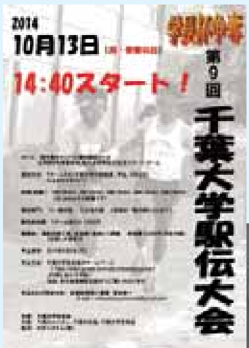
構内には大量の枯葉や枝が落ちていました。
お昼過ぎから1時間程度、職員の方々と共に落ち葉を集めてゴミ袋につめました。また、花壇作りも行いました。

7/26

12/15

学長杯争奪 第九回千葉大学駅伝

平成26年10月13日
場所：大学構内
「学長杯争奪千葉大学駅伝」とは千葉大学走遊会が主催する、学生も教職員も参加できる駅伝大会です。



ポスター

第九回となる今年、「ふれあいの環」の学生で３チーム
（1チーム5人）参加させていただきました。
60チーム以上が参加する中、優勝を目指して懸命に走りました。

戦績
17位　45分49秒　「ケンスケの携帯が壊れました（ノートテイク会）」
25位　46分24秒　「ふれあいの環　下総の虎」
32位　52分18秒　「ふれあいの環　下総の龍」

5団体交流会～クリスマス～

平成26年12月18日
場　所：総合学生支援センター2階『ふれあいの環』
参加者：学生20数名

「ふれあいの環」5団体の所属学生が、団体の垣根を越えて交流することを目的としたクリスマス会を開催しました。

最初に自己紹介・様々なレクリエーションゲームをし、最後にビンゴ大会をしました。
普段の活動から一旦離れて、今回は楽しみながら交流を深めることができました。

5団体交流会～ビブリオバトル～

平成27年1月5日
場　所：総合学生支援センター2階『ふれあいの環』
参加者：学生10数名

本を通した交流、知識の共有、そしてプレゼンテーション能力の向上を目的として、5団体学生でビブリオバトルを開催しました。

ビブリオバトルとは、「各自が面白いと思う本を持ち寄って、プレゼンテーション、質疑応答をする本の紹介コミュニケーション」です。今回のテーマは『小説』でした。本の内容だけではなく、発表者のこともより深く知ることができました。

ＦＤ資料

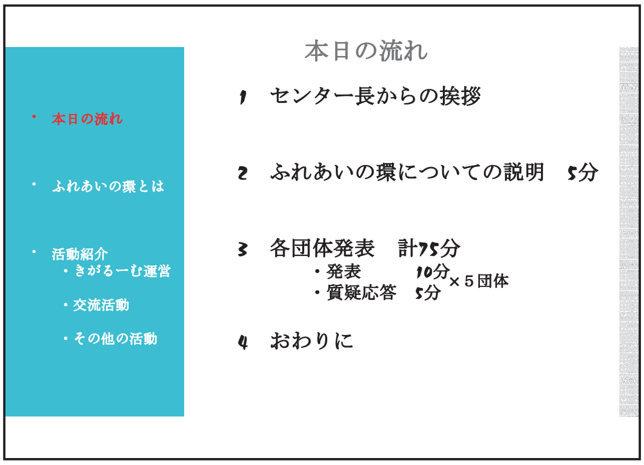
「全学ＦＤ研修会」ポスター

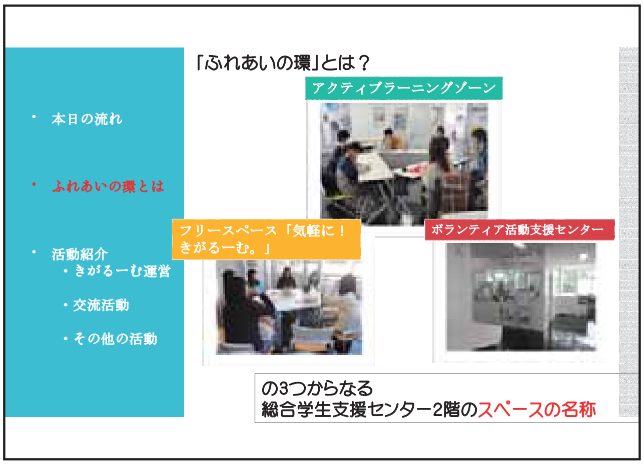
平成27年2月20日
参加者：学生20数名・教職員20数名
場所：総合学生支援センター2階
「ふれあいの環」

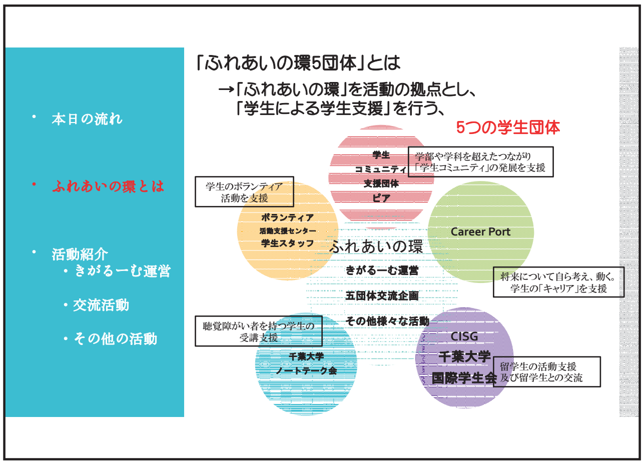
千葉大学高等教育研究機関 FD 推進部門主催の「全学 FD 研修会」を「ふれあいの環」で行いました。

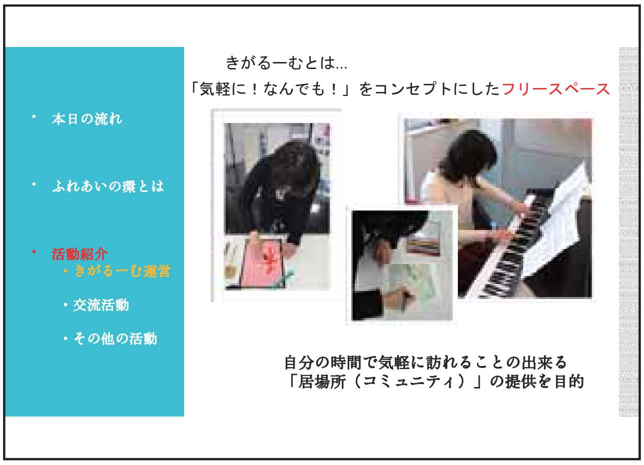
「全学 FD 研修会」は、主に大学の教職員向けの研修会です。学生が講義以外でどのような活動をしているのか知っていただくための機会として依頼を受けました。「ふれあいの環」に所属する５団体がそれぞれの活動について、現状や今後の展望について発表しました。

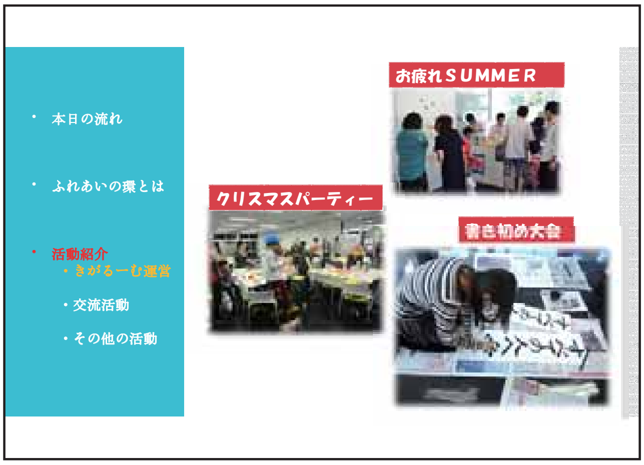
「ふれあいの環」




本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
「ふれあいの環」とは？
アクティブラーニングゾーン
フリースペース「気軽に！きがるーむ。」
ボランティア活動支援センター
の3つからなる
総合学生支援センター2階のスペースの名称


本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
「ふれあいの環5団体」とは
→「ふれあいの環」を活動の拠点とし、
「学生による学生支援」を行う、
5つの学生団体
学生コミュニティ支援団体ピア
学部や学科を超えたつながり「学生コミュニティ」の発展を支援
学生のボランティア活動を支援
ボランティア活動支援センター学生スタッフ
Career Port
ふれあいの環
きがるーむ運営
五団体交流企画
その他様々な活動
将来について自ら考え、動く。学生の「キャリア」を支援
聴覚障がい者を持つ学生の受講支援
千葉大学ノートテーク会
CISG
千葉大学国際学生会
留学生の活動支援及び留学生との交流


本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
きがるーむとは…
「気軽に！なんでも！」をコンセプトにしたフリースペース
自分の時間で気軽に訪れることの出来る
「居場所（コミュニティ）」の提供を目的


本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
お疲れSUMMER
クリスマスパーティー
書き初め大会

本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
新入生歓迎(4月)
五団体交流会(6月)
夏合宿(9月)

本日の流れ
ふれあいの環とは
活動紹介
・きがるーむ運営
・交流活動
・その他の活動
学長杯駅伝
キャンパスクリーン活動
田中みこし祭り

ＦＤ資料

ボランティア活動支援センター 学生スタッフ

文学部２年　林　夏菜子
工学部１年　海老澤啓介

発表の流れ

- センターについて
- 学生スタッフについて
- 活動について
- 本年度の活動紹介
- 現状の課題
- 今後の活動について

センターについて

ボランティア活動に関わる

企画・運営

募集情報の収集

希望者への情報提供

活動保険の加入申請

活動用品の貸与・支給

学生スタッフについて

- ミーティング…月1回
- 報告会…週1回(毎週月曜日)
- 各班の活動…広報班、企画班

ミーティングの様子

活動について

- 情報発信

  掲示板

  メールマガジン：毎月1日に2件のボランティア情報を希望者に配信

  Twitter

活動について

- 広報班

  掲示板の改善

ボランティア情報の管理方法、掲示板のレイアウトの改善。
ボランティア相談の手順について。
今後は、学生スタッフの広報も担当。

活動について

• 企画班
学外のボランティアに参加

不定期のミーティングで新たなボランティア活動を話し合う。
月に1度学生スタッフ内で参加の呼びかけをする。

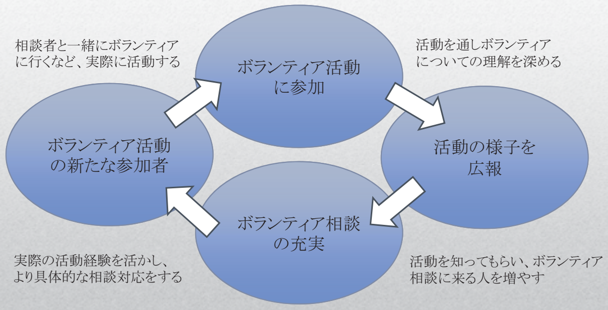
本年度の活動紹介

• 第5回ボランティアツアー

【実施概要】事前研修:8月27日
ツアー:9月10日～13日
事後研修:9月24日
参加者:学生28名、教職員8名
活動場所:福島県南相馬市

今度の活動について

• ボランティア活動の“サイクル”をめざして



今後の活動について

• ボランティア活動の“サイクル”をめざして

団体の活動の周知

活動の活発化

ご清聴ありがとうございました。

ＦＤ資料

学生コミュニティ支援団体 ピア

理 学 部２年　篠崎　　誠
教育学部１年　渡辺　綾香

学生コミュニティ支援団体ピア

理学部　地球科学科2年　篠崎誠
教育学部　中学校教員養成課程数学科教育分野1年　渡辺綾香

そもそもピアとは？

誰かとちょっと話したい・・・　いろんな意見をききたい・・・
ちょっとした悩みをきいてほしい・・・　そんな人のために場所や機会を提供する団体

↓

学部や学年を超えたつながりの場、話し合いができる環境作り

ピアの活動
履修相談会

主に新入生を対象として、大学での時間割のつくり方などを教える相談会

履修相談会の様子

ピアの活動
カタリベカフェ

月１回のペースで開催している、あるテーマについて各々の考えを共有したり話したりするイベント

テーマの例

「あなたが自信をもつのはどんなときですか？」
みなさんは友達などに対して、「あの人はいつも自信をもって行動してるなぁ。」「あの人なんでも上手くできるのに自信なさげにしてるなぁ。」と思うことはありませんか。自信をもつ基準が人それぞれだから、このように自分の考えと周りからの印象が違うことはよくあると思います。では、あなたは自信をもつのにどんな基準をもっていますか。普段このような話をすることはあまりないので、これを機にみんなで話してみませんか？飲み物を用意して、参加をお待ちしています。

テーマの例

「なんで勉強ってしなくちゃいけないの？」

親や先生に耳が痛くなるほど言われたであろう「勉強しなさい。」というフレーズ。授業評価をあげるため…入学試験に合格するため…　様々な理由があったでしょう。では、試験や成績のしがらみが減った今、なんの為に私たちは勉強をしているのでしょう。
また、子供たちに聞かれたとき、自分なりの答えを出せるでしょうか。大学生である今、受身ではなく、能動的に勉強する糸口を一緒に語ってみませんか？

活動の様子

活動の様子

活動の様子

ピアの抱える問題点

・認知度が低く、イベントの参加者が少ない

・活動の幅が狭い

・専門的な知識を持っているわけではない

今後の展望

・認知度を広げる

・新たな活動の開始

・メンバーの増加（1、2年生）

ＦＤ資料

Career Port

法経学部３年　青木　薫平

学生キャリア支援団体
career port

support your career up
career port

発表者
代表：青木薫平（法経学部3年）

学生キャリア支援団体
career port

組織ビジョン
千葉大生の自律的キャリアアップを支援する

- 設立　2001年
- 活動場所　総合学生支援センター
- 活動頻度　週１回程度ミーティング
- メンバー　９名

career port

社会人生活
就職活動
内定

内定がゴールではない。
その先を見据えたキャリアプランを。

career port

活動内容

キャリア支援

- 主に学部1,2年生向け
- 中長期的キャリアプランについて考える機会の提供

就職活動支援

- 就活生向け
- 主に内定者と就活生のマッチング（ノウハウや情報の共有）

career port

活動⑴ 自己分析ワークショップ

活動⑴ 自己分析ワークショップ

就職活動の「自分をアピールするため」の
自己分析ではなく、

「自分自身を深く考えるため」の自己分析
EX　自分史のまとめ
個性（思考特性・行動特性）の抽出
なりたい像の明確化

→ 他の参加者との対話により、
自己分析の質をさらに高めます。

career port

活動⑵ 内定者座談会

活動⑵ 内定者座談会

内定者と就活生のマッチングをします。

業界ごとに卓を分けてフリートーク形式。

→ 内定を取った学生と接することで、
　その業界の就職活動のイメージを具体化！

career port

活動⑶ キャリア座談会

活動⑶ キャリア座談会

目先の就職活動（内定）ではなく、

その先のライフプラン・キャリアプランについて考え、話す機会を提供します。

→ 他の参加者との対話を通じて、
　様々な価値観に触れます　“我以外、みな我が師なり”

career port

中期的ビジョン

⑴ <u>学生ならではの支援のあり方の模索</u>
……学生でしかできない支援はあるか？

⑵ <u>組織運営体制の改善</u>
……今までは4年と院生が中心
→ 引き継ぐメンバーがいない

⑶ <u>ストック情報の充実</u>
……「就職活動体験記」をストック

career port

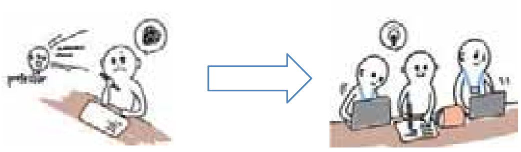
ＦＤ資料

ノートテイク会

文学部３年　熊田　真弓
理学部２年　相原　健佑

千葉大学ノートテイク会

会長兼コーディネータ: 文学部3年 熊田真弓
広報担当: 理学部2年 相原健佑



ノートテイク会　Chiba Univ.

今日の概要

目的
- 千葉大学ノートテイク会の活動と、その意義の理解

今日の流れ
- 聴覚障がい学生と学校生活
- 千葉大学ノートテイク会
- 私たちの活動の意義・今後について
（障害者差別解消法）

千葉大学ノートテイク会
マスコットキャラクター
「みみかくん」

名札に
いますよ！

ノートテイク会　Chiba Univ.

聴覚障がい学生と学校生活

- 学生生活において困ることは？

＜学習面＞
- 授業についていくのが難しい

必要な音（先生の話、学生の発表、映像教材の音声）が聞こえない、急な話の展開、相手の口が見えない　など
→**大学の授業では音が重要！**

＜生活面＞
- 大人数の会話に入れない
- 連絡、放送がわからない

ノートテイク会　Chiba Univ.

聴覚障がい学生と学校生活

- さまざまなコミュニケーション方法（一部）
  - 口話（こうわ）
    …口の形、聞こえた音、表情、話の流れから
    相手の話していることを読み取る。
    不確実であり、複数での会話を読み取ることができない。
  - 筆談（紙、携帯、パソコン、かきぽんなど）
  - 手話

ノートテイク会　Chiba Univ.

聴覚障がい学生と学校生活

- さまざまな支援方法（一部）
  - ノートテイク（手書き・パソコン）
    手話が使えない人もわかる。
    専門用語など手話にしにくい言葉にも対応。
  - 手話通訳
    手話を母語とする人には文字情報よりも即時的でわかりやすいこともある。
  - FM補聴器（話者がマイクをつける補聴器）
    特定の話者が話す時に便利。

ノートテイク会　Chiba Univ.

ノートテイクと情報保障

- ノートテイク？
  文字通訳による情報保障のこと
  必要事項のみをまとめた議事録ではない。
  → 学生自身が講義内容をノートに記録し、
  授業に参加している。
  ノートテイカーは耳の代わり。×学習補助×記録係

- 情報保障という考え方
  情報を誰もが同じように得られるようにすること
  ノートテイカーは講義中の音情報を文字にします。
  （授業内容、世間話、学生の発言、放送、物音など）

ノートテイク会　Chiba Univ.

千葉大学ノートテイク会

- 千葉大学ノートテイク会
  聴覚障がい学生の情報保障を行う団体

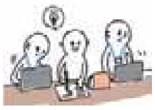
- 団体の概要
  主な活動場所：総合校舎A号館203号室

＜26年度後期＞
ノートテイカー（ノートテイク従事者）登録数：31名
講義でのノートテイク：週2コマ
（利用学生のコマ数によって毎年大きく異なる。
集中講義などのノートテイクも行う。）

ノートテイク会 Chiba Univ.

千葉大学ノートテイク会

- 講義・演習などのノートテイク
- 式典（入学式、卒業式）、イベントでのノートテイク
- 練習会（週一回）
  - 技術向上のため実践練習
- 研修会の開催（不定期）
  - 聴覚障がいの知識
  - IPTalk（ノートテイク用ソフトウェア）の使い方
  - 各種イベントの報告　など
- 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（PEPNet-Japan主催）に参加（年一回）



ノートテイク会 Chiba Univ.

千葉大学ノートテイク会

- 学生による支援
  - メリット
    - 気軽に相談しやすい
    - 自分が運営→責任感が生まれる
    - テイクでの経験を練習に反映できる
  - 課題
    - ノートテイクに入れる学生が偏る
      →空きコマにノートテイク派遣を行っているため
      （練習会などで補う・担当者のコマ数調整）
    - テスト期間など、テイカーの忙しい時期が被る

ノートテイク会 Chiba Univ.

私たちの活動の意義

- 障害者差別解消法
  2013年6月制定、2016年4月～施行
  障害者基本法をもとに障害者の元来持つ権利を保障

第3章　差別解消措置
「不当な差別的取り扱い」の禁止
「合理的配慮」提供の義務化
合理的配慮・・・平等な機会確保のため障がいを考慮して変更や調整、サービスを提供すること
（×病院で筆談を不当に断る　○手話通訳を派遣依頼）

参考：障害者ネットワーク　ノーマネット
http://www.normanet.ne.jp/~jdf/pdf/sabetsukaisyohou2.pdf

ノートテイク会 Chiba Univ.

私たちができる合理的配慮

- ノートテイク会の今後の活動
  - 聴覚障がい学生のニーズに合った情報保障
  - ノートテイカーの養成・技術向上
  - 学内への理解浸透（ガイダンス・パンフレットなど）
- 学生、教職員の皆様ができること
  - マスクは避け、口を大きく開けてはっきり話す
  - 大事なことは板書、筆談、レジュメに載せる
    （専門用語、レジュメの訂正、
    授業の流れなど）
    →視覚情報が理解を助ける

ノートテイク会 Chiba Univ.

おわりに

いつもご協力してくださっている皆さま、いつも活動へのご理解ありがとうございます。
今日初めて「千葉大学ノートテイク会」をお知りになった方とも今後授業、ガイダンス等でご一緒する機会があるかもしれません。
聴覚障がい学生への視覚情報の提供は、皆様のご協力あってこそ実現できる今後の課題です。
これからもご協力お願いいたします。

ご清聴ありがとうございました！

千葉大学ノートテイク会ホームページ：http://ntkai.skr.jp

ノートテイク会 Chiba Univ.

ＦＤ資料

CISG（国際学生会）

教 育 学 部２年　半澤　佳夏
法政経学部１年　松本　　僚

CISG

Chiba univ.
International
Students
Group

千葉大学国際学生会

CISG概要

- ➢CISG＝千葉大学国際学生会
- ➢国際教育センター傘下の団体
- ➢活動目標
  - ①留学生と日本人学生の交流の支援
  - ②留学生と日本人相互の文化理解の促進
  - ③活動を通して自分たちも留学生と交流

年間スケジュール

- UF
  - Universal Festival
  - 6月・12月に開催、留学生が自国文化発表
- WP
  - Welcome Party
  - 4月・10月に開催
- 入寮手伝い
  - 年２回留学生の入寮時に実施
  - 稲毛を案内するツアーも同時開催
- その他
  - Farewell Party, Chat Roomの企画・運営
  - 大学祭での留学生屋台手伝い

the 45th Universal Festival

▼出演国
タジキスタン
ハンガリー
フィンランド
（順不同）

the 46th Universal Festival

the 46th UF

▼ポスター発表国
オーストラリア
ドイツ
ロシア
グアテマラ
ブルガリア
ブラジル
カナダ
中国
マレーシア
スリランカ
（順不同）

※写真はカナダの発表

the 46th UF

▼ダンス
インドネシア

▼パネルディスカッション出演国
インド
タジキスタン
ハンガリー
韓国
日本
（順不同）

Welcome Party

入寮手伝い

※写真は入寮後の花見
留学生寮にて

Farewell Party

企画イベント

臨時イベントを企画するメンバーも

※写真はBBQ

Contact Us

- ご意見・質問などはこちらまでお願いいたします。
- Yahoo mail（左）：
  cisg_communication@yahoo.co.jp
- face book（右）：
  https://www.facebook.com/cisg.communication

活動を振り返って

平成24年～

元代表　法経学部経済学科４年　子安奈穂

　学生スタッフとして、地域やNPO団体の方々、学内外で活躍する教職員の方々や学生団体と関わりを持ちながら、学内のボランティアを促進する活動に取り組んできました。潜在的なボランティアに対するニーズを汲み取れるよう試行錯誤しながら、広報活動や企画をしてきましたが、ボランティアを通して、学生や教職員の方々、そして地域の方々が、それぞれの立場や意識の垣根を越えた繋がりを作り、一つになって物事を解決していくという場面に出会うたびに、学生が学生ボランティアをすることの意義を実感することができました。私にとってボランティアとは、社会のために自分は何をすべきなのか、何が出来るのかを自己の中で見出す切掛けをくれるものだと思っています。社会が抱えている問題を、実際にボランティアを必要としている方々から感じ取り考える。そして仲間や現地で活動している方々と協力し、可能なところから活動に取り組むことで、アプローチしていく。それは、普段の大学の講義では学ぶことができない貴重な体験だと思います。そのような貴重な体験を多くの学生にもしてもらえるように、学生スタッフとして培った経験を活かして、今後とも精力的に活動していきたいと思います。

平成25年～

前代表　文学部行動科学科３年　新井祐里

　今年度、学生スタッフは約30名での活動となり、わずかではありますが昨年度より人数を増やし、活動も益々活発なものになっています。これは、昨年度までの積み重ねもあってこそのものだと感じています。昨年、一昨年と、学生スタッフは何のために存在するのか、誰のための活動なのか、という模索を繰り返してきました。経験やノウハウの蓄積、メンバーや環境の変化を通して、少しずつ方針を変え、今の形になっています。今までできなかったことも人数の増加や充実した設備のおかげで可能になりました。私は、今に至るまでにたくさんの苦労があったこと、今の環境は多くの人のおかげであることを忘れてほしくない、と感じています。今となっては当然のように使えているものも、２年前にはありませんでした。なぜこの場所が与えられているのか、なぜこのような場所で活動できるのかということも考えながら、これからも活動していきたいと思います。

平成26年～

現代表　文学部日本文化学科２年　林　夏菜子

千葉大学ボランティア活動支援センターが 2011 年３月に設立され、今年５年目を迎えます。学生スタッフの前身となった団体はありますが、学生スタッフも設立して５年目となります。そして、これはそのまま東日本大震災の発生からも５年目を迎えるということです。そんな節目の年を迎えるなか、私たちはこれから何を考え、どう行動していけばよいのでしょうか。

学生スタッフの活動を通して、私は実に様々な人と出会いました。一緒に活動をする仲間や先輩方、教職員の方々、NPO の方に社会福祉協議会の方。しかし、どの人もまた、誰かのことを考え一生懸命に活動していました。

何のため、とは分かりません。ただ、誰かを必要としている人がいることを知って現場に駆けつける。そして、その人の声を聴き一緒に行動することが大事なのではないかと思います。必要なことは、常に関心を持つことです。しかし、実際には関心があってもなかなか行動に移すことが出来ない人も多いと思います。そんな人の助けとなるべく、私たち学生スタッフがいます。

私たちは、とても恵まれた環境で活動が出来ています。そのことに感謝を忘れず、これからも一生懸命に活動していきたいと思います。

理学部物理学科４年　小林篤史

私は大学入学当初、「報酬を得るために仕事をする」という価値観を持っていました。
したがって将来の就職を考える際は「安定」「ブラック」「ブランド」等のことしか考えず、大学生活も「働くまで遊ぶ時間」としか捉えずにただ漫然と毎日を過ごしていました。

しかし学生スタッフに入りいくつかボランティアを経験したり、学生や職員の方々と関わったりする中で、その価値観は大きく変わっていきました。

現在は「社会貢献が重要であり、報酬は付属である」と考えています。すると、就職に関しては「自分がどう社会に貢献するか」、大学生活では「いかにして大きく貢献できる人間になるか」ということを、意識するようになりました。

いまだ悩みの中ですが、自分では良い変化だと思っています。また、人のためにも自分のためにも、活動を続けていきたいです。

スタート➡こちら側からお読み下さい。➡

ふれあいのわ通信

平成26年度

7月

16日 キャンパスクリーン活動

ふれあいの環のメンバーで、「キャンパスクリーン活動」(施設環境部主催)に参加しました！

私たちの担当は普遍教育棟周辺で石や落ち葉の回収草刈等を行いました！

職員さんの方々ともお話ししながら楽しく活動しました！

飲み物の差し入れも頂きました☆

17日 カタリベBAR

カタリベBARとは、学生同士の交流の場を設けて、他者とのつながりを広げるきっかけを作ることを目的としたイベントです。

今回は「アニメ」をテーマに、学年や学部の垣根を越えてフリートークを楽しみました。50名以上の方にご来場いただきました！

☆夏の特別号！☆

8月

1日 高校生説明会

ふれあいの環OGの学生が現在働いている高校の生徒たちを連れてきてくれました！

現役の大学生の話をみんな興味津々に聞いてくれました。サークル活動、将来の夢などがやはり気になるようです。

全員集合！

大学生にはないJKならではのきらきらオーラが我々大学生には目にしみました。。。サングラスが欲しかったです（笑）

7日 お疲れSUMMER！

8月7日に、前期を乗り切ったことと夏の訪れを祝う（？）会「お疲れSUMMER」を開催しました。

今年のテーマは「縁日」で、カキ氷・輪投げ・型抜き・絵手紙の4つの企画を準備しました！

輪投げ

当日は職員さんと学生合わせて70名以上の方が遊びに来てくれました！

型抜き

絵手紙

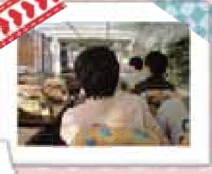
「ふれあいの環」では〝学生の学生による支援〟として、ピアサポート学生と教職員によって、様々な企画・運営をしています。誰でも気軽に参加できます！

9月

2～3日 ふれあいの環合宿

メンバーの親睦を深めるとともに（ちょこっとミーティング）山中寮で夏合宿を行いました！

アトラクション盛りだくさんでした！山中湖のKABAで散策です。



夕食準備中

花火

ミーティング中

今後の「ふれあいの環」について、ミーティング。みんな真剣です。

6日 柏　ふるさと田中みこし祭り

千葉大学柏の葉キャンパスのある、柏市の「ふるさと田中みこし祭り」に学生12名で参加しました！

「えっこれを担ぐの!?」想像をこえた、おみこしの立派さに一同騒然！！

みんな肩を痛めつつも楽しく駅前を練り歩きました。貴重な体験ができました！最後はピース☆

9月

10～13日（1泊4日） 第5回ボランティアツアー

学生28名、教職員8名で福島県南相馬市へ行ってきました！震災から3年半、まだまだ何か力になりたい学生が集い4日間活動させていただきました！

出発直前

2日目。家の整理・清掃やごみの分別、庭の草刈等を行いました。

事前研修

集合写真

事後研修

1日目。現地のボラセンで説明を受け、竹林の伐採作業をしました。

リフレクション

千葉大OBで現地の病院で活躍している方のお話を聞きました。

後日学長と理事に報告させていただきました！

あとがき

かけがえのない経験と学びの場に感謝

総合学生支援センター長
兼　ボランティア活動支援センター　石　井　正　人

2015年３月で、東日本大震災から４年が経過しました。復興・復旧は進みつつあるとはいえ、まだ道半ばです。

2015年２月の警察庁の発表では死者15,890人、行方不明2,590人、負傷者6,152人であり、復興庁の2014年12月の発表によれば震災関連死3,193人にのぼります。また2015年１月の復興庁の資料では、なお避難者24万人、仮設住居等への入居者９万人になります。厚生労働省の調査では2014年３月の段階で震災孤児241人、遺児1,524人になるといいます。千葉県にも2015年１月31日現在で3,925人の避難者がいます。

被災地・被災者には国の内外から公的私的に様々な援助が行われてきましたが、なお一層、物心両面の援助が必要とされる現状であると思われます。

千葉大学も、震災直後の2011年３月に「千葉大学ボランティア活動支援センター」を創設し、全学を上げ継続的に被災地・被災者に対して支援活動を行ってきました。そしてこの足取りを以下の報告書にまとめて参りました。

『３．１１を想う一東日本大震災と若者たち』(2012年３月)

『千葉大学ボランティア活動支援センター　平成24年度活動報告』(2013年３月)『平成25年度活動報告　福島は、いま　千葉大生の活動を通して』(2014年３月)

今ここに、平成26年度活動報告をまとめ、被災地・被災者の支援と、さらにそれ以外のさまざまなボランティア活動の成果について紹介できることをうれしく思います。

最後に、千葉大学の学生たちにかけがえのない経験と学びの場を与えて下さった皆さまに心から感謝致します。

平成27年3月20日

ー東日本大震災から４年を経てー

ピア・サポート室長　長 澤 成 次

2011年３月11日の東日本大震災から４年が経とうとしています。そして震災後に千葉大学ボランティアセンターが立ち上がってから４年。このように毎年、報告書をまとめてきた学生スタッフの皆さん、そして学生の活動を支えてこられた職員の皆さんにあらためて敬意を表したいと思います。

この１年間、十分なお手伝いをすることができませんでしたが、その時々に学生スタッフの活動を見せていただきました。この報告書からも伝わってきますが、スタッフの皆さんが、地道に継続的に活動を続けていること、そして新たな分野にも積極的に関わり、参加されていることをとてもうれしく思います。５回目になる東北ボランティアツアーもそうですが、福島県富岡小学校の子どもたちとの継続的交流もすごいですね。なぜならば、災害列島に住んでいる私たちにとって震災の「記憶」を風化させない常に意識的で継続的な努力が求められているからです。とはいっても、昨年の報告書の「あいさつ」にも書きましたように、ボランティア活動にとって学生の自主性・自発性は瞳のように大切にしなければなりません。そして、その自主性・自発性を育てる鍵は「学ぶ」ということです。

その意味で昨年９月２日から３日にかけて行われた「ふれあいの環」夏合宿（千葉大学・山中寮）は、端緒的ではありましたが、貴重な取り組みであったと考えています。自分たちの活動を常に振り返る機会をもつこと、そしてボランティアツアーもそうですが、宿泊を伴う形態はいっそう参加者の交流を深めるからです。私の専門である社会教育の世界では「寝床分科会」という言葉があります。形式的な？研修が終わったあと、寝床に入ってからが、自らの生い立ちなどにもふれながら、本音で語りあえる学びの空間が現出するからです。しかし、これは昔ながらの大部屋で宿泊した時代のことですから、今の時代はちょっと厳しいかもしれません。いずれにせよ、来年度は、もうひとまわり、参加者を増やして「夏合宿」ができるといいかもしれません。

最後に、新たな出発（たびだち）をする4年生の皆さんへの感謝と共に、バトンタッチされた在学生の皆さんの新年度に向けての新たなチャレンジに期待をして、私の「あとがき」としたいと思います。

編集スタッフ

ボランティア活動支援センター長

学生スタッフ一同

学務部学生支援課

平成２７年３月 発行

発行者　千葉大学学務部学生支援課・千葉大学ボランティア活動支援センター

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町1-33

043-251-1111(代)